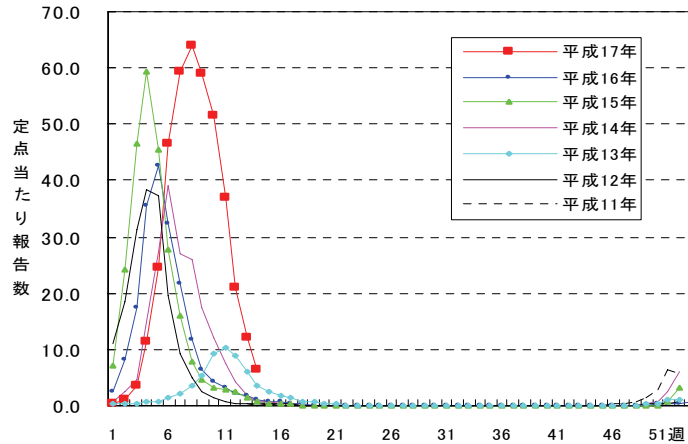


トピックス



※その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

● 愛知県の今年のインフルエンザの動向

寒さも和らぎ、青葉の季節とともに今年のインフルエンザもようやく終焉を迎えようとしています。そこで今シーズン(2004/2005)のインフルエンザの動向を昨シーズン(2003/2004)と比較して検討してみました。まず流行のピークですが、昨シーズンは第5週から第6週(2月初旬~中旬)でしたが、今シーズンは当初暖冬だったせい、名古屋市を含めた愛知県で第7週から第9週(2月中旬~3月上旬)とピークが例年に比べ遅れたのが特徴です。流行インフルエンザウイルスの型も昨シーズンはA香港型が11月の検出当初より95%以上を占め、2月に至りやっと少数例のB型が見られる例年のパターンでしたが、今年はB型が11月にすでに現れ、その後も2月末までB型優位が続きました。一般的にB型が優位の時には流行が小さいものですが、今シーズンは例外的に大きく、新たな感染症法が実施された以降の過去6年では最も大きな流行となり、これらは例年とは異なった流行パターンでした。

● インフルエンザワクチンの話

毎年その年のインフルエンザの流行を予想し、各国でワクチンが生産されます。今回日本ではAソ連型、A香港型に対応して、ニューカレドニア株、ワイオミング株が、B型には上海株が選択されました。愛知県では毎年、流行の可能性のあるインフルエンザウイルス株に対する住民の抵抗力の強さを推測するために抗体検査を実施しています。今シーズンの流行を前にした平成16年7月から9月にかけて223名の県内在住の健康人の調査をしました。

その結果、A型に対しては県民の4人に1人しか抵抗力を持っていなかっただけでなく、平成13年以降は世界的にB型流行の主流となっているB型/ブリスベンに対してはわずか3%(ほとんど0)の人しか抵抗力を持っていないことが判明しました。

これから類推すると、愛知県民のほとんどがB型に対する基礎免疫力がなく、1回のインフルエンザワクチンの接種では十分な免疫力の獲得ができない可能性があり、今年のようにB型優位の流行年には、ワクチンを接種したにもかかわらずインフルエンザに罹患してしまった可能性があります。しかし、だからといってインフルエンザワクチンが無意味と決め付けるのは早計かつ誤りです。ワクチンによる免疫力の獲得に個人差はありますが、ワクチン株と流行株が一致している場合は、病的弱者である老人、乳幼児の死亡率や重症化の防止に対して特に有効だけでなく、成人の発症予防、症状減弱効果も指摘されているからです。

● 2004/2005 シーズンのインフルエンザの流行について

平成 16 年 11 月から平成 17 年 3 月の間に県衛生研究所に搬入された 216 検体から 157 株 (73.0%) のインフルエンザウイルスが分離されました。その内訳は、A ソ連型インフルエンザウイルス 1 株 (0.6%)、A 香港型インフルエンザウイルス 64 株 (40.8%)、B 型インフルエンザウイルス 92 株 (58.6%) となっています。本県における 2004/5 インフルエンザシーズンは、B 型が流行の主流を占め、A 香港型はシーズン後半になって流行したと考えられます。流行時期については、B 型は平成 16 年 11 月から始まり、平成 17 年 1-2 月をピークとして流行しました。一方 A 香港型は、平成 17 年 2 月から 3 月にかけて流行しました。本県のウイルス分離状況は、全国 (平成 17 年 4 月 8 日現在で A ソ連型 160 株、A 香港型 1,413 株、B 型 2,372 株) と比較してほぼ同様の傾向を示していました。

また集団かぜ事例からは、1 月 20 日から 28 日にかけて、県内 6 地域の小学校 (衣浦東部保健所管内、豊田市保健所管内、一宮保健所管内、豊川保健所蒲郡支所管内、加茂保健所管内、豊橋市保健所管内) から 62 検体が搬入されました。豊橋市保健所管内小学校の事例からは A 香港型が 6 株、残り 5 事例のうち 4 事例からは B 型が計 19 株分離されました。また、2 月 10 日には瀬戸保健所管内の小学校から 12 検体が搬入され、A 香港型 1 株、B 型 2 株が分離されました。

抗原性は A 香港型については、全て今冬 (2004/2005 シーズン) のワクチン株と類似していました。B 型については、ワクチン株とは異なる系統 (ビクトリア系統) のウイルスが 1 株分離されましたが、残りの 91 株はワクチン株 (山形系統) と類似していました。

以上のインフルエンザウイルス分離状況から、今シーズンの流行は B 型を主流とした A 香港型を含む混合流行と考えられました。

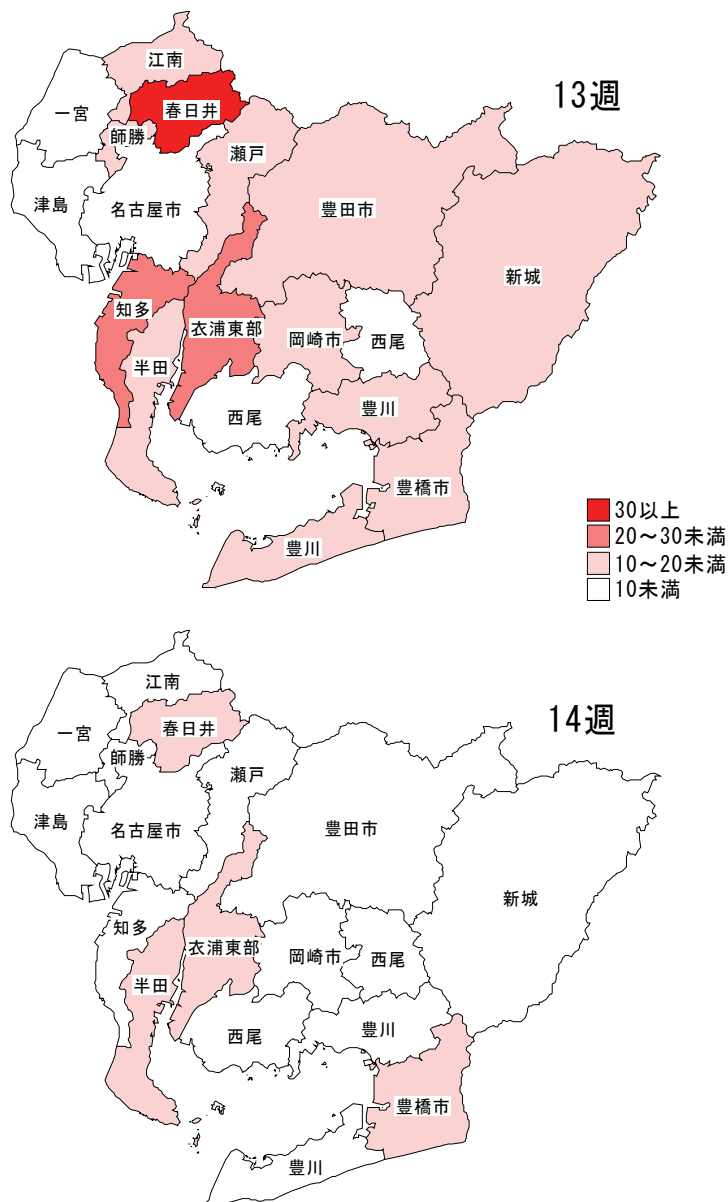
検査定点の先生方におかれましては、検体を採取していただきありがとうございました。流行予測の観点から流行閑期におけるインフルエンザウイルスの動向を把握することは重要と考えられます。これから夏期に向けてインフルエンザを疑う症例があった場合、積極的に検体採取していただくようお願い致します。

発生動向調査	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検体数	7	36	74	68	31	216
検出数	5	20	51	55	26	157
Aソ連型	0	1	0	0	0	1
A香港型	0	2	19	24	19	64
B型	5	17	32	31	7	92

集団かぜ	1月	2月	合計
検体数	62	12	74
検出数	25	3	28
Aソ連型	0	0	0
A香港型	6	1	7
B型	19	2	21

- ◆ 愛知県感染症情報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)
- ◆ インフルエンザ関連情報リンク (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/inf_links.html)
- ◆ 愛知県のインフルエンザの流行予測について (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/infyosoku.html>)
- ◆ インフルエンザウイルス分離状況 (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infbunri04_05.html)

インフルエンザの保健所別報告数の推移(名古屋市含む)



		14週	定点 当たり	13週	定点 当たり			14週	定点 当たり	13週	定点 当たり
名古屋市		249	3.6	464	6.6	知多		66	9.4	152	21.7
瀬戸		69	7.7	92	10.2	岡崎市		57	5.2	124	11.3
津島		18	2.6	40	5.7	衣浦東部	○	154	11.8	274	21.1
師勝		20	5.0	44	11.0	西尾		20	4.0	32	6.4
一宮		44	2.8	126	7.9	豊田市		55	6.1	143	15.9
春日井	○	176	19.6	307	34.1	豊橋市	○	135	11.3	214	17.8
江南		28	4.7	64	10.7	豊川		47	5.2	127	14.1
半田	○	70	11.7	103	17.2	新城		10	5.0	23	11.5

○ は今週警報が出ている保健所(市)です。
 4月1日から保健所再編により加茂保健所が衣浦東部保健所加茂支所となったことに伴い、
 加茂保健所3定点が衣浦東部保健所(2定点)と豊田市(1定点)に移りました。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるインフルエンザの流行発生注意報は保健所(市)定点当たり10人を越えた場合に、また、流行発生警報は30人を越えた場合に発生し、10人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

◆ 3 月の一～五類感染症（全数把握対象）発生状況

平成 16 年度に発生のおつた 疾病名 ()内は全対象疾病数		平成 17 年 3 月			平成 16 年度 累 計 (愛知県)	備考 (3 月)
		県 分 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県		
一類 感染症 (7)						発生報告無し
二類 感染症 (6)	コ レ ラ				6 [1]	
	細 菌 性 赤 痢	40(21)[1]		40(21)[1]	63(21)[1]	
	腸 チ フ ス				7	
	パ ラ チ フ ス				8	
三類 感染症 (1)	腸管出血性大腸菌 感 染 症	1	3(1)	4(1)	168 (37)	○157 4 件
四類 感染症 (30)	A 型 肝 炎				10	
	オ ウ ム 病				2	
	Q 熱				2	
	つ つ が 虫 病				3	
	デ ン グ 熱				4	
	マ ラ リ ア	1		1	5	
	レ ジ オ ネ ラ 症				13	
五類 感染症 (14)	ア メ ー バ 赤 痢	2	2	4	48	
	ウ イ ル ス 性 肝 炎 (E 型 肝 炎 及 び A 型 肝 炎 を 除 く。)	1		1	9	B 型 1 件
	急 性 脳 炎				6	
	ク ロ イ ツ フ ェ ル ト ・ ヤ コ ブ 病	1		1	6	孤発性 1 件
	劇 症 型 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 感 染 症				3	
	後 天 性 免 疫 不 全 群 症 候 群	1	3	4	76	AIDS 2 件 無症候性 2 件
	ジ ア ル ジ ア 症				1	
	髄 膜 炎 菌 性 髄 膜 炎	1		1	2	
	梅 毒	2		2	37	早期顕症 1 件 無症候 1 件
	ハ ン コ マ イ シ ン 耐 性 腸 球 菌 感 染 症				1	

()内は無症状病原体保有者、[]内は疑似症者の再掲

◆ 五類感染症（月報定点把握対象）発生状況

No	疾 病 名	平成 17 年 3 月			平成 17 年 2 月		
		県 分 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体	県 分 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体
1	性器クラミジア感染症	115	21	136	89	25	114
2	性器ヘルペスウイルス感染症	26	7	33	22	6	28
3	尖形コンジローマ	21	7	28	31	3	34
4	淋菌感染症	64	25	89	74	22	96
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	106	10	116	94	8	102
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症						
7	薬剤耐性緑膿菌感染症					2	2

上記の報告数は感染症月報指定届出機関（性感染症：51、基幹：13 医療機関）で把握したものです。

感染症の類型及び定義

類 型	定 義
一類感染症	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症（人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。）
五類感染症	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。

【対象疾病】

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」で定める86疾病

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

- 8歳マイコプラズマ肺炎
溶連菌感染症、咽頭結膜熱ややめだちま
す。
【一宮市 あさのこどもクリニック】
- 病原性大腸菌O1 1歳男、25歳女
病原性大腸菌O18 53歳女
病原性大腸菌O25 5歳男
病原性大腸菌O86a 53歳女
病原性大腸菌O146 2歳男
病原性大腸菌O166 6歳男
マイコプラズマ肺炎が大変多いです。エン
テロウイルス感染症が増加してきました。
【一宮市 城後小児科】
- インフルエンザはほぼ終息しました。キッ
トも手に入らなくなりました。
【一宮市 医療法人かすが内科】
- インフルエンザA型4例、B型2例ありま
した。
水痘が多発しています。
手足口病でできました。
メタニューモウイルスもまた増えだして
います。
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
- 感染性胃腸炎が流行しています。
インフルエンザは非常に少なくなりました。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
- 10ヵ月男、1歳8ヵ月女、1歳4ヵ月女、
1歳1ヵ月女 ロタウイルス (+)
【春日町 丹羽医院】
- インフルエンザA型5名
【師勝町 田中クリニック】

尾張東部地区

- インフルエンザは減少していますが、す
べてA型(50%は予防接種済)です。
病原大腸菌O1 2歳男、3歳男
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
- インフルエンザは週の後半からみられな
くなりました。
マイコプラズマ感染症、アデノウイルス
感染症みられています。
その他、水痘、溶連菌感染症散発
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
- インフルエンザ21例 A型19例、B型2例
胃腸かぜ続発中
水痘少々
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
- インフルエンザは終了しました。
【春日井市 かがわ北病院】
- インフルエンザ減少中
ロタ腸炎つづく
【小牧市 小牧市民病院】
- インフルエンザはほぼ終息しそうです。
【小牧市 志水こどもクリニック】
- インフルエンザ A型10人、B型1人
インフルエンザが減少しました。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
- インフルエンザ A型4件、B型1件、
【半田市 医療法人林医院】
- インフルエンザ7名(A型6名、B型1名)
感染性胃腸炎 散発
【南知多町 医療法人大岩医院】
- インフルエンザは終息傾向です。
ヘルペス性咽頭炎が数名います。
【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

- 10ヵ月男、2歳男 ラピッドテストロタ/ア
デノ(アデノ+)
9ヵ月男、2歳男2名、2歳女 ラピッドテ
スタロタ/アデノ(ロタ+)
インフルエンザA型 3名(6ヵ月男、1
歳男、4歳女)
4歳男 病原大腸菌O25
2歳女 イムノカードSTアデノウイルス(+)
46歳女 カンピロバクター腸炎
【豊田市 星が丘たなかこどもクリニック】
- インフルエンザA 2名
【豊田市 田中小児科医院】
- インフルエンザ A型3名、B型0名
【岡崎市 医療法人深田小児科】
- 病原性大腸菌O86 2歳男
病原性大腸菌O6(+) 11ヵ月男
【岡崎市 花田こどもクリニック】
- 1歳女、10歳男 アデノ
8歳男 カンピロバクター
【岡崎市 にいのみ小児科】

- 9歳男 病原性大腸菌O1
- 2歳男 病原性大腸菌O18
- 3歳男 アデノウイルス滲出性扁桃炎
- 8歳女 カンピロバクター
- インフルエンザ A型5名、B型1名
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
- インフルエンザ A型2名
【岡崎市 栗屋医院】
- インフルエンザ
A型 3人（予防接種あり 3人）
B型 1人（予防接種あり 0人）
【岡崎市 医療法人永坂内科医院】
- ムンプスが目立ちます。
幼児～学童の嘔吐症も時々あり。
【碧南市 永井小児クリニック】
- 4月9日（土）にまだインフルエンザA 2人陽性でした。
【刈谷市 まついこどもクリニック】
- FLuA（+） 3例
【刈谷市 田和小児科医院】
- インフルエンザ 7名
アデノウイルス 陽性 1名（3歳）
【知立市 宮谷クリニック】
- インフルエンザB 3歳女
【西尾市 やすい小児科】
- 2歳男 アデノウイルス感染症
1歳男 病原性大腸菌O18 VT（-）
インフルエンザは減少しましたが、まだあります。A型が中心です。
【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

- ロタウィルスと思われる胃腸炎・溶連菌感染症・水痘の子が時々います。
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
- 1歳女 ヘルペス歯肉口内炎
【豊橋市 野村小児科】

一～三類感染症の発生状況

— 愛知県（名古屋市を除く。） —

- 発生報告なし

四類・五類（全数把握）感染症の発生状況

— 愛知県（名古屋市を除く。） —

- 後天性免疫不全症候群 1例（無症候性、推定感染地域：国内、推定感染経路：不明）
（<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/hiv.html>）
- 梅毒 4例（早期顕症Ⅱ期 4例、推定感染地域：国内 3例、不明 1例）
推定感染経路：性的接触 2例、不明 2例）うち 1例は 14週報の再掲
（<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#5-11>）

ハナガサイテ ハナガチレバ...古いドイツ民謡などを歌ってみたりしています。今年の天候不順で公園の桜も驚いているようです。学期始めでキャンパスも新入生で賑わっています。いつも貴重な情報を有難うございます。3月後半のまとめをお送りします。

1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からはA型インフルエンザが増加しているがピークは過ぎた印象でB型インフルエンザも少数あり、クループ症候群と水痘が増加傾向、ロタウイルス腸炎はピークを過ぎて減少、インフルエンザとロタウイルス腸炎の入院が目立ち、クループ症候群の入院例が多く、マイコプラズマ肺炎は一定の入院がありほとんど変動なし、城北病院渡辺先生からはインフルエンザ激減（時間外も激減、流行中は医師疲弊寸前で3月になり回復）、急性胃腸炎が散発（ロタ陽性例が目立つ）、百日咳がたまにあり、アデノやRSウイルス感染症もあり溶連菌感染症がやや増加、第二日赤岩佐先生からはインフルエンザとロタウイルス感染症の入院が目立つが一時よりは減少、千種区今枝先生からはインフルエンザが3月前半より多く、ムンプス4歳女1名、三菱病院入山先生からはインフルエンザが依然多く約30名（A型優勢、A・B両方陽性の例が1名。肺炎、脱水、蕁麻疹等の合併などで9名入院）、感染性胃腸炎（病原性大腸菌O1、O18、O6等）、ムンプス1名、髄膜炎1名（入院）、マイコを含む肺炎で6名入院、中京病院柴田先生からはインフルエンザ（A>B）が流行（要入院例あり）、ロタウイルス腸炎の入院も目立ちムンプス流行中（髄膜炎合併例あり）、大同病院水野先生からはインフルエンザは減少しているが続いており（AとB両方、痙攣で要入院例あり）、アデノウイルスによる咽頭結膜熱、マイコプラズマ肺炎が目立ち（気管支炎で咳がかなりひどい入院例がある）、水痘が目立ち百日咳1例ありとのお手紙でした。

2) 尾張地区：犬山市武内先生からは溶連菌感染症3例、水痘1例、ロタウイルス感染症を含む感染性胃腸炎が目立ちはじめ、インフルエンザは総数が半減、A型とB型の割合は半々になりB型が初期から長期持続、江南市昭和病院小児科からはA群溶連菌感染症が目立ちインフルエンザがまだ流行中で入院例（A型）あり、ロタウイルス胃腸炎とアデノウイルス感染症の入院目立つ、瀬戸陶生病院山口先生からはインフルエンザは減少傾向であるがまだ終息はしていない（今年は脳症の例がなかった）、常滑市民病院上田先生からは溶連菌感染症、感染性腸炎、インフルエンザが目立ちインフルエンザ、ロタウイルスを含む感染性腸炎、マイコプラズマ肺炎の入院が目立つとのお手紙でした。

3) 三河地区：刈谷市田和先生からはインフルエンザは3月第4週に入って激減、水痘、溶連菌感染症、ロタ腸炎いずれも散発中、碧南市永井先生からはインフルエンザがピークを過ぎたがA型主体にまだ出ている、豊橋市からはインフルエンザA散見、水痘、嘔吐下痢症や溶連菌感染症感染性が少数例あり（市内長屋先生、宮澤先生）とのお手紙でした。有難うございました。

2005 年 3 月 18 日（80 巻 11 号）<http://www.who.int/wer/2005/wer8011/en/>

- ☆ マラリア。旅行者むけ注意。ドミニカ共和国のマラリア予防内服薬に関するWHOからの勧告：同国のマラリア危険度は減少、熱帯熱流行地区における予防薬としてクロロキンを推奨。04年に東部を襲ったハリケーン水害後発生したマラリアは当局の防疫活動により終息したことが付記されている。
- ☆ 鳥型インフルエンザ。ベトナム：05年3月11日、ベトナム当局はヒトA型（H5N1）感染者10名を新規確認。死亡3名。これまでの世界における発生のまとめ：第一期は04年1-3月、35名（死亡24）、第二期8-9月9名（死亡8）、第三期は10月以降現在まで25名（死亡14）、国別ではベトナム51名（死亡33）、タイ17名（死亡12）、カンボジア1名（死亡1）、合計69名（死亡46）となっている。
- ☆ 細菌性赤痢。国際ワークショップ：04年2月16日-18日、バングラデシュ・ダッカで専門家集団のワークショップ開催。目的：①細菌性赤痢の重要性(Burden)を再検討。②赤痢のサーベイランス手法の再検討。③WHOの赤痢対策に関する勧告の再検討。④赤痢対策の優先順位。ワークショップの概略①赤痢のBurdenについてアジア地区の状況を1990年以降の報告で解析。全体としては細菌性赤痢はアジア大陸では普通の疾患であり、推定年間患者数は9100万名、死亡4万1千4百名、フレキシネリ菌が最多、次いでゾンネ菌で薬剤耐性菌が多い。アフリカ地区の最近10年間の薬剤耐性を含む発生状況の変化を検討すると減少傾向はなく、発生状況は1993年-94年東アフリカ湖水地方で最初の大流行があり98年象牙海岸のアビジャンで流行、西アフリカでは99-2000年に流行が頻発、11カ国の報告で血性下痢患者発生頻度は10.2/千人/年、年間800万名以上と推定される。ナリジクス酸耐性は東アフリカで南・西アフリカよりも広がっており、有効性低下が目立つ。正確な検査室診断や耐性検査のため検査室整備が急務である。②最近の疫学・伝播経路：耐性菌が増加。上述のようにナリジクス酸耐性菌が広範にみられ、最近バングラデシュ、インド、ネパールではニューキノロン系薬剤耐性菌が出現している。伝播は基本的には水系経口感染症であり水供給と手洗いが当面の問題である。水の供給改善と石鹼の普及で赤痢発生頻度が減少したという報告は多い。ワクチン開発の努力は継続されていて弱毒生ワクチンの候補株がいくつか登場しているが、いまだ検討段階である。③サーベイランス改善：赤痢菌の血清型は15種類で正確な血清型分類が必要であり、さらに最近ではDNAレベルの解析が進められている。一方菌の分離培養について患者の便材料と環境材料、食品材料で異なっておりサーベイランスの基本資料として検査室整備が重要である。④臨床像と治療：抗生剤投与で症状軽減と同時に耐性菌の問題が発生した。バングラデシュ・ダッカにおける患者便材料と環境・自然界からの分離赤痢菌の継続的監視調査結果を元にした今回のワークショップの勧告ではナリジクス酸はもはや有効性を失っており一次選択薬としてはニューキノロン系のシプロフロキサシンを推奨している。
- ☆ 3月11-17日届出。コレラ：赤道ギニア、ケニア、オーストラリア（輸入例）。

2005年3月25日 (80巻12号) <http://www.who.int/wer/2005/wer8012/en/>

- ☆ 発熱性発疹症。ナイジェリア：05年3月、WHOに届出。2月28日時点でアダマワ州で発熱性発疹症1,118例（死亡76、患者死亡率6.8%）。臨床診断は麻疹。確認検査未実施。カノ州など他の5州でも麻疹発生、アダマワ州では麻疹ワクチンは入手可能であるが予防接種キャンペーンなどで普及不十分。WHOが状況調査中。
- ☆ 出血熱の疑い疾患。アンゴラ：05年1月-3月、出血熱による39例死亡の報告がWHOにあり。国レベルの作戦チームが組織されWHOが支援、WHOアフリカ地区事務局が南部アフリカ諸国に緊急国際組織を発足、医療機器供給を準備中（注：その後の情報ではマールブルグ病の疑い。重症・高死亡率で本邦では1類感染症。要注意）。
- ☆ ポリオ根絶。アフガニスタン・パキスタン、04年1月-05年2月。アジアにおけるポリオ流行地として残されたインド、パキスタン、アフガニスタンでもポリオ根絶は進捗していて、アフリカ・ナイジェリア（流行・増加中）と異なり確実に減少している。本報は最近のアフガニスタン・パキスタンのワクチン接種状況、急性弛緩性麻痺（AFP）の届出状況、検査結果とポリオ野生株の流行状況のまとめである。①ワクチン接種：04年8回、05年1-2月に2回、戸別訪問による一斉接種が5歳以下小児に実施、全国規模で進められているが治安上の問題や部族的問題のある地区もあり、そうした地域では当面5歳以下小児の60%を接種目標としている。②AFPと野生株流行：アフガニスタンでは安全上問題のある南部で発生、ポリオ3型。パキスタンではアフガン国境の北西辺境州と人口流動の大きいシンド、パンジャブ州で1型主体で1型と3型が流行（表あり）。月別ポリオ確定例数は減少中（グラフあり）。
- ☆ 世界のポリオ03-04年。05年3月15日のWHO届出。詳細な国別一覧表あり。04年の野生株確定例はアフリカ地区（ナイジェリアとその近隣諸国）941例、東地中海地区（スーダン、パキスタン、アフガニスタン）186例、東南アジア（インド）136例、西太平洋地区3（ワクチン株由来）となっている。
- ☆ 3月18-24日届出。コレラ：、カメルーン、コンゴ共和国。

愛知県感染症情報

2005年第14週(平成17年4月4日～平成17年4月10日)

愛知県衛生研究所

愛知県	定点数					RSウイルス感染症	鳥インフルエンザ(高病原性を除く。)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	(オウム病を除く。)	クラミジア肺炎	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																						
愛知県(名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	0	1,218	27	110	735	241	34	24	108	1	0	8	0	210	0	23	0	0	1	0	0	
総数(名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	0	969	23	68	527	192	29	19	79	0	0	7	0	167	0	18	0	0	1	0	0	
名古屋市	70	70	11	14	1		249	4	42	208	49	5	5	29	1		1		43		5						
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	69	5	5	36	7		1	3					6					1			
海部	津島	7	7	2	2	1	18		1	37	11	1	2	3					23		1						
尾張中部	師勝	4	4	1	1		20			17	3			2					2								
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	44	2	7	31	4	18	1	10					12		3						
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	176	5	3	19	19		2	7			2		4		3						
	江南	6	6	1	2		28	4	8	51	33	1	2	11					24								
知多半島	半田	6	6	1	2	1	70	1	4	22	3	2		2			1		2								
	知多	7	7	2	2		66	2	4	27	9		1	5					11		1						
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1	57		6	20	8	1	1	7					21		2						
	衣浦東部	13	13	2	4	1	154	1	12	37	24	5	4	6					19		5						
	西尾	5	5	1	2	1	20		4	10	6			3			1		6								
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1	55	2	4	117	8	1	2	6					15								
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1	135		9	64	28		2	10					4								
	豊川	9	8	1	2	1	47	1	1	39	29		1	4			3		18		3						
東三河北部	新城	2	2			1	10																				

4月1日から保健所再編により加茂保健所が衣浦東部保健所加茂支所となったことに伴い、加茂保健所3医療機関の定点が衣浦東部保健所(2医療機関)と豊田市(1医療機関)に移りました。

愛知県感染症情報

2005年第1週～第14週(平成17年1月3日～平成17年4月10日)(累計)

愛知県衛生研究所

愛知県	定点数					RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ (成人麻しんを除く。)	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	115	77,593	434	2,455	16,924	3,728	309	291	1,315	15	9	60	7	2,542	1	314	2	0	96	0	0
総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	97	61,602	328	1,729	12,086	2,892	264	230	1,007	13	3	42	5	1,960	1	253	2	0	96	0	0
名古屋	70	70	11	14	1	18	15,991	106	726	4,838	836	45	61	308	2	6	18	2	582		61					
尾張東部	9	9	2	3	1	14	3,980	94	163	580	164	1	21	55		2	4	1	55		6			28		
海部	7	7	2	2	1		3,176		64	983	117	6	17	40					228		8			2		
尾張中部	4	4	1	1			2,027		48	399	101		8	17					13		9					
尾張西部	16	12	3	4	1		4,351	15	96	925	192	76	10	82					137	1	12	1				
尾張北部	9	9	2	3	1	17	6,941	77	109	833	234	8	14	99	1	1	9	1	97		21					
	6	6	1	2		3	2,696	44	202	836	179	25	3	107			1	1	211		17					
知多半島	6	6	1	2	1	5	2,769	26	55	595	212	30	22	39	1		2		130		5			1		
	7	7	2	2		7	3,714	13	280	704	140	2	11	90			1		173		4					
西三河南部	11	7	2	2	1	5	6,019	2	116	338	170	36	11	123	2		3		250		10					
	13	13	2	4	1	6	8,762	11	138	988	442	25	61	104			2		229		67			6		
	5	5	1	2	1	11	1,847	6	71	378	145	20	11	42			4		54		16					
西三河北部	9	9	2	4	1	8	4,531	6	174	2,487	275	18	10	90	8		2		192		42	1		40		
東三河南部	12	8	2	4	1	1	6,578	29	120	1,117	210	6	10	72			8		40		27			17		
	9	8	1	2	1	20	3,552	5	92	895	293	10	21	46	1		6	2	146		9			2		
東三河北部	2	2			1		659		1	28	18	1		1					5							

4月1日から保健所再編により加茂保健所が衣浦東部保健所加茂支所となったことに伴い、加茂保健所3医療機関の定点が衣浦東部保健所(2医療機関)と豊田市(1医療機関)に移りました。

愛知県感染症情報

2005年第1週～第14週(平成17年1月3日～平成17年4月10日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
計	97	61,602	328	1,729	12,086	2,892	264	230	1,007	13	3	42	5	1,960	1	253	2	0	96	0	0
～6ヶ月	49	296	8	4	165	65	3		63	4		1		1		1					
～12ヶ月	21	917	22	12	870	193	19	5	589	1		1		9		3					
0歳																	1		4		
1歳	15	3,146	71	65	2,007	514	48	18	333	1	1	9		76		7			13		
2歳	9	3,539	48	108	1,312	505	45	16	19			7	1	171		12			17		
3歳		4,115	43	169	973	469	46	19	2	1		7		250		9	1		7		
4歳	1	5,362	52	299	940	518	38	31				7	1	418		5			7		
5歳	1	5,346	33	348	771	304	22	34				2	2	355		9					
6歳	1	5,263	28	246	599	145	16	40		1		3	1	288	1						
7歳		3,918	4	142	432	58	6	21			1	1		130		2					
8歳		3,555	2	109	357	41	4	14						92		2					
9歳		3,075	5	67	314	16	2	11				1		48		2					
5歳～9歳																			29		
10歳～14歳		5,617	6	93	761	43	2	16	1		1	3		86		7			6		
15歳～19歳		932		6	275	6								5		4			1		
20歳～			6	61	2,310	15	13	5		5				31							
20歳～29歳		4,097														34			1		
30歳～39歳		5,916														74			4		
40歳～49歳		2,542														28			1		
50歳～59歳		1,803														20			1		
60歳～69歳		1,111														15			1		
70歳～																19					
70歳～79歳		643																	3		
80歳以上		409																	1		